

明治大学公開数理教育シンポジウム 2013 年 3 月

学校数学と大学数学の「谷間」 — それは実在する絶壁か、それとも怠惰のいいわけか ～ 実力ある教員養成への強い意志

日時: 2013 年 3 月 8(金曜日), 9 日(土曜日)

場所: 明治大学生田校舎 A 301 教室 (A 館)

基本趣旨:

高校から大学の理学系数学科に進学してくる学生たちの多くが、大学の数学の理解に困難を感じている。

その理由は、学生たちの勉強に対する真剣と言えない姿勢によるのか、
いかによい授業で、学生たちがいかに真剣になっても通じない現実がある
のか

もしその現実があるとすれば、それを打開することは可能なのか

このような問題に対して、できるだけ包括的かつ具体的に論じたいと思います。数学科を卒業し、教員免許を取り、採用試験に合格すると、彼らが教員として教育現場で《若者を数学的に育てる聖職者》になっていくのですから、現状は、十分満足できるものともなっていないと言わなければならないでしょう。

数学的に十分な理解を有し、多様な高校生のそれぞれを学理的に正しく指導できる実力ある教員を養成するために、明治大学は、そしていくつかの大学が新しい実践を介意しています。このような実践活動の成果と限界を評価すると同時に、より大きな成果を実現していくための知恵を交換する。

プログラム:

1. 3 月 8 日(金曜日) 初日 10:00-17:00

- (a) 10:00-10:45 「基調報告: 数理教育の形而上学に向けて」 長岡 亮介 (明治大学理工)
- (b) 10:45-11:45 「パネルディスカッション: 現代数学との出会い—ここが辛かった」 (阿部 洋一, 井原 雄太朗, 宮寺 暁, 森 勇心, 岡村 貴大, 由比藤 茂斗)
- (c) 11:45-12:05 「大学数学で躓いたこと」 武田 侑子 (明治大学理工)

昼食休憩

- (d) 13:00-13:45 「学生セッションを受けての討論」

Tea Break

- (e) 14:15-15:00 「教育数学と数学教育を考える」 河合 博一 (元駿台甲府小中高校長)
- (f) 15:00-15:45 「中等教育における幾何学の役割」 乙藤 隆史 (日本大学工学部)
- (g) 15:45-16:30 「数学の理解とその説明の仕方について」 伊達 章 (宮崎大学工学部)
- (h) 16:30-17:00 「質疑応答、総括討論」

懇親会 (スクエア 2 1)

2. 3月9日(土曜日)二日目 10:00-17:00

- (a) 10:00-10:45 「数学科を選んでこれが良かった」 (内藤 絢, 橋本 和生, 宗像 俊行, 川崎 博美, 新妻 翔)
- (b) 10:45-11:05 「今どきの数学科の学生に対する数学教育」 谷田部 篤雄 (明治大学理工)
- (c) 11:05-12:05 「学生セッションを受けての討論」

昼食休憩

- (d) 13:00-13:45 「進学校において受験教育を超える試み」 近藤 準一 (渋谷幕張中学高校)
- (e) 13:45-14:30 「『数学を学ぶ』ことと『数学をする』こと」 峰村 勝弘 (日本女子大理学部)
- (f) 14:30-15:15 「私の数学から、あなたの数学へ」 矢崎 成俊 (明治大学理工)
- (g) 15:15-16:00 「New way of teaching Geometry with Physical point of view in mind」
Eckhard Hitzer (国際基督教大学)
- (h) 16:00-17:00 English Session for Math Students, organized by Eckhard Hitzer (ICU)